

記入例

様式第1号(第3条関係)

(表面)

ひたちなか市教育委員会

奨学生願書										
ふりがな 氏名		たろう ひたちなか 太郎			※ 男 · 女 平成〇〇年〇〇月〇〇日生 (満〇〇歳)		奨学資金の貸与希望期間 令和8年 4月から 令和12年 3月まで 4年 月間			
進学希望校 又は在學校		高等学校専攻科 高等専門学校 専修学校 課程 学部 科 〇〇大学 〇〇学部 〇〇科								
		所在地 〇〇県〇〇市〇〇〇〇								
		希望する奨学資金		※ 奨学金 · 入学準備金		入学準備金の申請額		円		
本人		住所 ひたちなか市〇〇〇〇 (方) 電話番号 〇〇〇 (〇〇〇) 〇〇〇〇								
家族住所		ひたちなか市〇〇〇〇 (方) 電話 家計支持者の続柄の前に〇〇〇〇								
家族の状況	続柄 父	氏 ひたちなか 一郎	年齢 46	職業 会社員	勤務先 〇〇㈱	年収 (税込) 4,800,000	父又は母死亡のときはその年月日 (歳)			
	母	ひたちなか 花子	45	パート	〇〇製作所	1,023,000	就学者の 在学校名	学年	通学方法	現在までの 市奨学資金 貸与の有無
	本人	ひたちなか 太郎	18	大学生	〇〇大学	年※ 1	自宅・自宅外	有・無		
	×姉	ひたちなか勝子	20	大学生	〇〇大学	3	自宅・自宅外	有・無		
	妹	ひたちなか漢子	17	高校生	〇〇高校	2	自宅・自宅外	有・無		
		ひたちなか次郎	78	無職	2,400,000		自宅・自宅外	有・無		
		合計 (5人)					年金「恩給・老齢年金等」の収入金額を記入してください。			
	×申請番号 本市前奨学生	决定番号と学校名	貸与期間		借用証書提出 年月			×決定番号 第 号		
		年 日から		年 月						
家族の状況は、申請時点の状況を記入してください。										

(裏面)

家族経済状況及び奨学資金貸与希望理由	<p>姉は東京都にある大学に進学し、自宅外通学をしており、妹は私立高校看護科2年に在学中です。また、祖父は腎臓が悪く入退院を繰り返していて、今後、病状が悪化すれば、腎臓透析が必要になると言われているため、母親は、現在の週3.5日の就労を短縮する必要が出てくることが予想されます。</p> <p>現在でも、学費・生活費・医療費の出費が大きい状況ですが、私が私立大学に進学することを希望しているため、両親の経済的負担を少なくしたいと思い応募しました。</p>		
	<p>○○年 3月 ひたちなか市立○○中学校卒業 年 ○○年 3月 県立○○高校卒業 年 年 月 年 月</p>		
<p>以上のとおり記載に相違ありません。 奨学生として採用の上、奨学資金の貸与をお願いします。 なお、採用の上は、ひたちなか市奨学資金貸与条例の規定に従い、奨学生としての責務を果たすことはもとより、奨学資金の返還その他の義務についても、両名連帯の責任を負うことを誓約します。</p> <p>令和○年 ○月 ○日</p> <p>本人 氏名（署名） ひたちなか 太郎</p> <p>連帯保証人 住所 ひたちなか市○○○○</p> <p>氏名（署名） ひたちなか 一郎 続柄 本人の（ 父 ） 昭和○○年 ○月 ○日生</p> <p>ひたちなか市教育委員会 殿</p>			

(記載上の注意)

- ※印の箇所は、該当するものを○で囲み、×印の箇所は記入しないこと。
- 家族の状況のうち、続柄の前に、家計支持者には○印を、別居者には×印を付けること。
- 家族経済状況及び奨学資金貸与希望理由は、具体的かつ詳細に記入すること。
- 本人の履歴は、休学、転学、退学、身分の異動等も理由を付して記入すること。
- 連帯保証人は、父母又はこれに代わる者（本人が未成年者であるときは、その法定代理人）で、市内に住所を有し、将来奨学資金返還の責任を負いうる者であること。
なお、出願の際は連帯保証人1人でよいが、奨学生として採用されたときは、更に別の保証人1人を要するので、あらかじめ考慮しておくこと。
- 所定欄に記入のないものは、判定材料を欠くものとして不採用とすることがある。